

2025 年 2 月 吉日

2024 年度 大東文化大学大学院 英文学専攻 特別講義のご連絡

2025 年 2 月 20 日（木）、同月 21 日（金）に大東文化大学大学院 英文学専攻 特別講義を開催する運びとなりました。両日共に大東文化会館で開催いたします。

特別講義の流れや詳細等のご確認は下記をご参照くださいますようお願い申し上げます。

記

■2024 年度 大東文化大学大学院 英文学専攻 特別講義

日 時：2025 年 2 月 20 日（木）、21 日（金）

パンフレットの配布開始：2 月 17 日（月）～

開催場所：2 月 20 日（木）、21 日（金） 於大東文化会館（東武東上線東武練馬駅より  
徒歩 3 分）

開催時間：開場：10 時 00 分、 開会：10 時 20 分（昼休憩あり）閉会：15 時 00 分

事前申し込みについて：ご参加希望の方は以下の URL または QR コードにて必要事項をご入力の上、**2 月 16 日（日）17：00** までにお申し込みください。

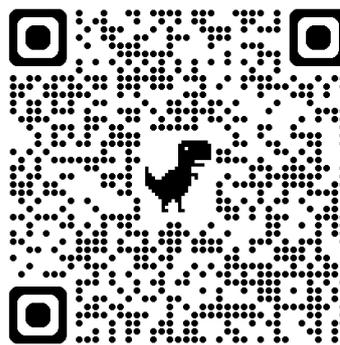
参加申込受付フォーム

URL:

<https://forms.gle/w1eDo9i9Ln68cPGT8>

[必要事項]

- 1 ご参加予定日
- 2 お名前
- 3 お名前(フリガナ)
- 4 メールアドレス
- 5 ご所属
- 6 学籍番号



申し込みフォーム

プログラム

	2月20日(木)	2月21日(金)
10時00分	受付開始	
10時20分	開会式	
10時30分 ～ 12時00分	カリブ会地域の文学作品と 自然表象  都留文化大学 教養学部 比較文化学科 教授 齋藤 みどり先生	ヴェトナム戦争時代の ネオ・ノワール  千葉商科大学 基盤教育機構 准教授 大勝 裕史先生
12時00分 ～ 13時30分	昼休憩	
13時30分 ～ 15時00分	ビラヴド三部作と、その時代  愛知県立大学 外国語学部 英米学科 講師 青木 耕平先生	Work in Progress の問題域 ——考えるヒントへ  本学名誉教授 中村 邦生先生
15時00分 ～ 15時15分	閉会式	

ご不明な点等ございましたら、以下の英文学専攻のメールアドレスにご連絡ください。

([dbu.postgrad.englit@gmail.com](mailto:dbu.postgrad.englit@gmail.com))

以上

# 2024年度 大東文化大学大学院

## 英文学専攻 特別講義 要旨

2/20(木)

10:30~12:00

「カリブ海地域の文学作品と自然表象」

都留文科大学 教養学部 比較文化学科 教授  
齋藤 みどり先生

プリンストン大学教授のロブ・ニクソンは、他の地域にはみられない規模で人間と環境の搾取がされていたことから、カリブ海域の島々こそがポストコロニアリズムとエコクリティシズムにとって重要な場所であると主張した。発表では、ラフカディオ・ハーンのカリブの自然の描写を手始めに、ハイチ出身のマリー・ヴェー・ショヴェ (1916-1973) の『愛、怒り、狂気』(1968)における自然の搾取と女性への暴力、同じハイチ出身のエドウィッジ・ダンティカ (1969-) の『海の光のクレア』(2013)にみる、ショヴェからの影響について論じる。

13:30~15:00

「ビラヴド三部作と、その時代」

愛知県立大学 外国語学部 英米学科 講師  
青木 耕平先生

1987年発表の『ビラヴド』、1992年の『ジャズ』、そして1998年刊行の『パラダイス』は、それぞれが独立し完結した長編小説であるが、著者トニ・モリスンはそれを「ビラヴド三部作」と呼んで括った。長年、それが三部作であることの必然性は著者モリスンしか知り得なかったが、直筆史料が公開されたことで状況は一変した——。本講義では、「ビラヴド三部作構想シノプシス」の資料調査の成果報告を共有しつつ、「時代がいかん文学テキストに介入するか」について考えます！

2/21(金)

10:30~12:00

「ヴェトナム戦争時代のネオ・ノワール」

千葉商科大学 基盤教育機構 准教授  
大勝 裕史先生

第二次世界大戦期に現れた暗い犯罪映画であるフィルム・ノワールは1950年代後期に収束するが、ヴェトナム戦争期にネオ・ノワールとして復活する。興味深いことに、アメリカの映画批評がフィルム・ノワールをジャンルとして論じ始めるのとほぼ同時に、ハリウッドはそのジャンルを再利用し始めている。本講義では、ノワール・ジャンルのいささか捻れた系譜性を整理しながら、そのケース・スタディとして『タクシー・ドライバー』（*Taxi Driver*, 1976）を扱う。

13:30~15:00

「Work in Progress の問題域——考えるヒントへ」

本学名誉教授  
中村 邦生先生

二年前の講義では、「文学テキストの〈リアリティー〉のありか」というテーマを中心に創作者の立場から講義を進めました。今回はさらに問題を具体的に並列させ、いま進行中の仕事からどのような想念が明滅しているのか、すなわち〈いま／ここ〉の揺れ動く思考の軌跡を、可能な限り皆さん一人一人の「考えるヒント」に寄与するようにお話したいと思います。一部を示せば、「テキストの横軸と縦軸の動性」、「感動と換喩の親密な関係」、「アフォーリズムの誘因力と落とし穴」など。皆さんとの応答時間も確保するつもりです。